

リハビリテーション学科

【科目名】		発達心理学		【担当教員】		宮岡 里美	
【授業区分】		専門基礎分野(臨床医学)		【授業コード】		2-12-0310-0-3	
【開講時期】		後期		【選択必修】		選択	
【単位数】		1		【コマ数】		15 コマ	
【注意事項】							
(受講者に関わる情報・履修条件)							
<p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で小児から高齢者までの言語・高次脳機能障害や精神機能障害等のリハビリテーションに従事してきた経験から、生涯にける人の発達の変化と非定型発達について講じます。人間の発達全般についての理解を深めておくことは、将来、医療・保健・福祉・教育等の分野で活躍したい学生にとっては重要です。リハビリテーション心理学専攻の学生にとっては、公認心理師、認定心理士の資格取得に必須の科目となっています。</p>							
(受講のルールに関わる情報・予備知識)							
<p>この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。</p>							
【講義概要】							
(目的)							
<p>本科目では心理学の知見に基づいた生涯発達の過程(ここでは誕生～青年期前期まで)を学ぶことを目的とします。誕生から青年期前期に至るまでの心身の発達の概要、認知機能の発達及び感情・社会性の発達、自己と他者の関係の在り方と心理的発達、発達障害等非定型発達等についての基礎的な知識及び考え方を学びます。当該科目と学位授与方針との関連性; A-1, P-2, O-1, R-2</p>							
(方法)							
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。内容は、原則指定教科書に準じます。資料は全受講生に配付します。欠席した場合には、後日担当者から受け取り、必ず参照しておいて下さい。</p>							
【一般教育目標(GIO)】							
<p>「生涯発達」という考え方を理解する。 胎児期及び乳幼児期～青年期中期に至るまでの</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体的発達の特徴を知る。 2. 各ステージにおける認知機能及び感情・社会性の発達のプロセス、自己と他者のあり方の心理的発達の様相を知る。 3. 各ステージにおける発達の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。 							
【行動目標(SBO)】							
<p>胎児期及び乳幼児期～青年期前期に至るまでの各発達段階で発生しやすい心理的危機を知る。そして、その原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。各ステージの心理的危機に対して、適切なこころの支援ができる。</p>							
【教科書・リザーブドブック】							
<p>特に指定せず。 毎回、プリントにて講義内容と関連資料を配布する。</p>							
【参考書】							
<p>本郷一夫(編)「発達心理学」公認心理師の基礎と実践 第12巻, 遠見書房, 2018年, 2,808円 向田久美子(著)「発達心理学概論」(放送大学教材), NHK出版, 2017年, 2,808円 二宮克美/宮沢/大野木(著)「ガイドライン 生涯発達心理学」第2版, ナカニシヤ出版, 2015年, 2000円+税</p>							
【評価に関わる情報】							
(評価の基準・方法)							
<p>下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 発達心理学の基本知識につき、定期試験を実施する。 出席点は評価に含まれません。</p>							

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80				20			100
評価指標	取り込む力・知識	40							40
	思考・推論・創造の力	20							20
	コラボレーションとリーダーシップ	20							20
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	発達心理学の基礎 ・生涯発達とは？ ・発達の規定要因	講義	発達の定義 遺伝と環境	30
2	発達心理学の基礎 ・発達研究の方法(概説)	講義	縦断的研究 横断的研究 コホート 実験・調査・観察	30
3	発達心理学の基礎 ・発達段階とその課題	講義	発達段階と発達課題 ライフコース ライフサイクル	30
4	発達心理学の基礎 ・発達初期の障害	講義	発達障害とは 早産・低出生体重児 代理母実験とホスピタリズム カンガルー・ケア 知的能力障害	30
5	胎児期・乳児期 ・一般的特徴 ・個性の発現 ・研究法	講義	生理的早産、子宮外胎児期 馴化・脱馴化法、吸啜法 選好注視法 感覚運動期(ピアジェ) 対象の永続性	30
6	胎児期・乳児期 ・社会性の芽生え ・発達の障害	講義	アタッチメント(愛着) ストレンジ・シチュエーション法 反応性愛着障害 基本的信頼	30
7	幼児期 ・全体的特徴 ・個性の発達の基礎	講義	前操作期 レディネス(ゲゼル) 発達の最近接領域(ヴィゴツキー)	30
8	幼児期 ・社会性の発達	講義	自己中心性 第一反抗期 心の理論	30

9	幼児期 ・社会性の発達 ・発達のおまずきと障害	講義	遊びの発達（パーテンの分類） 自閉症スペクトラム障害	30
10	児童期 ・全体的特徴 ・認知発達	講義	具体的操作期、脱中心化 保存の概念 リテラシー	30
11	児童期 ・社会性の発達	講義	仲間関係 道徳観（向社会的行動）の発達	30
12	児童期 ・発達のおまずきと障害 まとめ	講義	注意欠陥多動性障害（ADHD） 学習障害（LD）	30
13	青年期前期（中学生の時期） ・全体的特徴 ・個性の発達	講義	思春期、第二次性徴 心理的離乳 第二反抗期 親子関係の変化	30
14	青年期前期（中学生の時期） ・自己概念	講義	アイデンティティの形成 IとMe	30
15	青年期前期（中学生の時期） ・社会性の発達 ・問題行動：学校不適応	講義	性役割 学校ストレス・不登校 不良行為と非行	30